

前大阪府知事の橋下徹氏が、意表をつく知事から市長への鞍替え出馬を敢行、40年ぶりの大阪府知事・市長の「ダブル選挙」の中、現職の平松邦夫元市長に大差をつけ圧勝・当選したニュースは記憶に新しい。

投票率 60・92%で前回選 43・61%をはるかに凌ぎ、言わば有権者の圧倒的支持を、橋下新市長は確認出来たと言っても過言ではあるまい。その彼が大上段に掲げるのが、今やおなじみとなった "大阪都" 構想である。その内容は都市制度改革や二重行政見直しなど色々あるが、ひと言で言えば "大大阪" である。これは決して荒唐無稽なものではない。

実は大阪は江戸初期以来日本の金融センター及び大製造地帯であったことに言を待たないが、近代後もそれは続き、特に 1925 年の市域拡張の際、既に人口が 211 万人となり、当時では日本第 1 位、世界第 6 位の "だいおおさか" になった。今日の大阪の凋落ぶりからは想像も出来ない話だが、実は聖書にはこれとよく似た実話がある。

それはイスラエルの旧首都エルサレムの話だ。かつてそこは名君の統治する理想郷であった。平和で富があり、アカデミズムに優れた "憧れの街" であった。やがて時が移りイスラエルは自らの繁栄を誇りごう慢になり、国は北と南に分裂、それぞれが本家を主張し合う二重行政状態に陥った挙句、度重なる外的の侵入と、国内における官吏の収賄や汚職によって国力は低下、人々は貧困に喘ぎついに滅亡したのだった。その後聖書預言が的中し、数百年の時を経てキリストが登場する。彼の "デビュー" 第一声が

「悔い改めよ。天の国は近づいた！」マタイの福音書 4 章 17 節：共同訳、

である。つまり新しい "大エルサレム" を宣言したのだ。そしてそれは、今日も世界中で大阪のケース同様 "議論沸騰" である。なぜならそれは "地球最後の日" に関係するからである。悔い改めねば滅ぶのは大阪だけではないということだ。

2012-1-3

道廣の近附合十 丸大 繁盛御 (所名阪大)
Mido, Line Large Street Near of Daimaru And Sogo

